

2025/11/27

富山大学訪問報告

1. 概要

日時	2025 年 11 月 27 日（木）2 時限（10 時 00 分～12 時 00 分）
訪問先	国立大学法人富山大学（富山県富山市五福 3190 番地） 人文学部 大西宏治 教授 授業調整日の 2 限を利用「ソクジョの会×富山大学学生の対話の会」として実施 人文学部第 6 講義室（定員 195 名）
参加者数	24 名（2 年 10 名、3 年 5 名、4 年 2 名、その他） （地理学 15 名、考古学 1 名、都市デザイン学部 1 名、その他） 教師 2 名
ソクジョの会 出席者	鎌田、横山（パスコ）、中川（中日本航空）、趙（国際航業）、 杉森（エアロトヨタ）、阿部（日本測量協会）
タイトル	「ソクジョの会×富山大学学生の対話の会」
内容	・あいさつ＋日本測量協会の説明 ・測量、地理空間情報業界の紹介 ・職歴紹介（5 名）

2. 時間割

時間	内容	所要時間	担当
10：00～	先生からのご紹介 ソクジョの会からのごあいさつ	5 分	大西先生 阿部
10：05～	測量コンサルのお仕事	25 分	中川
10：30～	わたしたちの仕事と経歴の紹介	85 分／5 人	鎌田（文化財） 趙（航空写真測量） 中川（UAV） 横山（都市計画） 杉森（海外地形図）
11：55～	質疑応答・ディスカッション	5 分	全員

3. 配付資料

- ・ソクジョの会のちらし
- ・ソクジョの会小冊子（メジャジン）
- ・測量の日のグッズ（クリアファイル、ハンドタオル）

4. 質疑応答

Q： 高校教師になる予定だが、測量や地理空間情報に興味を持ってもらう良い内容を教えてほしい（全員が回答）

A： 地政学など、土地の成り立ちや自然条件が世の中の動きに影響を与えていることを示せば興味を持ってもらえるのではないかな。

A： 航空写真測量の分野では、実際に航空機に搭乗し、空から地表を撮影することで、普段とは全く異なる視点から地形や街の構造を捉えることができます。こうした「空から見る」という体験は非常に印象に残りやすく、地理や測量、地理空間情報への興味を喚起する大きなきっかけになります。

必ずしも搭乗体験そのものに限らず、航空写真や撮影事例を通して、空から取得したデータが地図作成や防災、都市計画などにどのように活用されているかを紹介することで、測量が現実社会と直結した分野であることを実感してもらえると考えます。

A： 小学生に向けた学習支援を行った際、最新技術を駆使して計測したデータを活用した地域の史跡コンテンツを使ったことがあります。同時に測量機器等も展示して、とても興味をもってもらいました。文化財に限らず、測量・空間情報は様々な分野と関係があります。色々な切り口から測量・空間情報に触れてもらう機会を作ることも1つの方法です。

A： 学生さん個々で、それぞれ興味を持つ目線は違うと思う。例えば、文系であれば地形や歴史から、理系であれば数式やプログラムから、など多様なアプローチからそのうちの1つでも興味を持ってもらえるものがあれば良いのではないかな。

5. 全体感想

・ 参加した学生たちに話を聞くと、もっとゆっくりと話を聞きたかったという感想が多かったです。1回で終わらせてしまうにはもったいない内容だったと思います。測量に関する仕事を自分とも関係すると振り向いた学生が何人もいたようです。みなさまのお話が面白かったからだと思います。

海外事業に興味があったり、地図を起こすところから支援するということに興味を持ったりした学生もいたようです。終わった後にもう少し時間が取れば、学生たちは個別にお話ししたかったのだらうなと感じました。

これから改めて相談させていただきますが、次年度、授業の中でお話いただくことができると大変ありがたいです。次年度に向けて企画を検討しますので、よろしくお願いします。(大西先生)

・ 今回の富山大学への学校訪問は、私自身にとって初めての経験であり、大変貴重な機会となりました。これまで業務として携わってきた航空写真測量について、学生の皆さんにどのように伝わるのか不安もありましたが、発表後のアンケートや質疑応答を通じて、測量や地理空間情報の仕事を「自分にも関係のある分野」として捉えてくれた学生が多くいたことが印象的でした。

特に、空から地表を捉えるという航空測量の視点や、取得したデータが防災や都市計画、インフラ整備など幅広い分野で活用されている点に関心を持ってもらえたことは、測量業界の魅力を伝えるうえで大きな手応えを感じる部分でした。一方で、限られた時間の中では十分に伝えきれなかった内容も多く、学生から「もっとじっくり話を聞きたかった」という声があったことから、今回の取り組みを一度きりで終わらせるのは惜しいと感じました。

本訪問を通じて、測量や地理空間情報の分野は、進路選択の段階にある学生にとって、具体的な仕事内容や社会との関わりを知る機会が非常に重要であることを改めて認識しました。今後、授業の一環など、より継続的な形で学生と対話できる機会があれば、測量業界への理解や関心をさらに深めてもらえるのではないかと考えています。(趙)

・ ソクジョの活動として、今回が2回目の大学訪問でしたが、アンケートの内容を見ていると自分自身が学生の頃感じていた測量へのイメージと同じような感想を持っている学生がやはり多いと感じました。測量といっても「多様な」「幅広い」イメージを持ってもらえたことは今回の訪問の大きな効果かと思います。今回は、それぞれ異なる分野での経験を持っているメンバー5人で参加しましたが、ソクジョの会として訪問活動を行う効果を改めて具体的に感じることができました。(中川)

6. 写真添付



大学正門



講義案内ポスター



講義風景



大西先生挨拶



阿部さん挨拶



中川さん



鎌田さん



趙さん



横山さん



杉森さん

以上